

草木染め (タマネギの皮で染める)

[対象：小学3年生以上]

★ねらい 普段は捨てているタマネギの皮を使って染色液を作ったり、さらし木綿に模様を作って染色したりして、草木を使った染色に興味を持たせ、自然への関心を高める。



1. タマネギで木綿を染める

[準備物]

- ・タマネギの皮 ・大豆 ・ミキサー・なべ
- ・さらし木綿 (60×60cm) ・豆絞り用の布
- ・輪ゴム ・ざる ・丸箸 ・ミョウバン

(1) 布の準備をする。

木綿の中には、たんぱく質が含まれていないので、木綿の中に大豆のたんぱく質を含ませ、大豆のたんぱく質の力を借りると色が染まりやすくなります。

①一昼夜水に漬けておいた大豆に同量の水を加えて、ミキサーでできるだけ細かくくだく。



②くだいた豆汁を、豆絞りの布で絞る。

④豆乳をつけたさらし木綿を乾かす。

⑤乾かしたさらし木綿を、再び豆乳に30分間浸した後に、乾かす。



[木綿にたんぱく質を含ませる他の方法]

- 牛乳を水で2倍にうすめ、その中に、さらし木綿を1時間くらいつけておく。
- 固く絞って、乾かす。

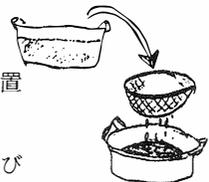
(2) 染液 (せんえき) を作る。

①なべに、タマネギの皮 (10個分程度) を入れ、これに水を1ℓくらい加えて火にかける。ぐらぐら煮立ってから、15分間くらい煮る。

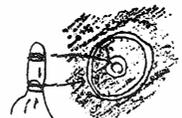


②煮汁をとる。

おけ (なべ) の上にざるを置き、煮汁をとる。



③残ったタマネギの皮を、再び煮出して、2番汁を取り、最初の汁と一緒にする。



(3) 絞りの模様を作る。

①鉛筆で、さらし木綿に大小の円を描き、模様を作る。

②円の中心に丸箸を立て、布をひっぱり、輪ゴムをからげて右図のように巻く。



○できたら箸を抜き、次のものを巻く。

(4) 煮染めをする。

○タマネギの染液に、絞りを入れたさらし木綿を入れて、静かにかき混ぜながら、20分程度煮る。

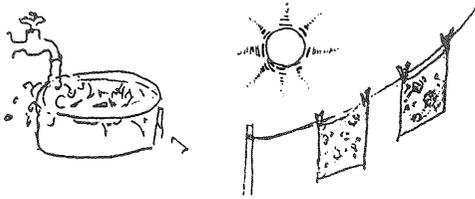


○なべから出して、さます。

(5) ばいせんする。

①ミョウバン10gを4ℓの湯に溶かして、ばいせん液を作る。

- ②ばいせん液の中に30分間浸しておく。
- (5)もう一度、染液で10分間煮る。
- (6)水洗いをして、途中で輪ゴムを取り、乾かす。



媒染液によって、染まる色が変わるので、次のようなものを用意しておき、選択させるのがよい。

○アルミニウム媒染

- ・夏に、ツバキ・サザンカ・ヒサカキなどの枝葉を切り、生のまま、よく燃やします。
- ・白灰になったら、水を入れたバケツに灰を入れよく攪拌し、そのまま放置しておき、上澄み液を媒染液として使用する。

○鉄媒染——「おはぐる」に使用した方法です。

- ・米酢500ml に水500ml を加え、錆びた古い釘500g を入れて、30分間加熱する。
- ・水を加え、液量を500ml にする。

○銅媒染

- ・水酢酸に細かくした銅片（又は銅粉）を入れて2週間程度放置しておく。
- ・放置しておくくと、緑色になってくる。

○灰媒染

- ・木灰やわら灰、生石灰を水に入れ、よくかき混ぜて放置しておく。
- ・上澄み液を媒染液として使用する。

(3)いろいろな染料液

四季折々に見られる次のような草木を使っても染色することができます。(色については、作る染色液の濃さや媒染液によって異なるので、目安として参考にして下さい。)

- ヤエザクラ (枝や葉) ——赤色、赤茶色
- ヤエザクラ (花) ——ピンク
- オオマツヨイグサ (花) ——黄色
- オオマツヨイグサ (枝や葉) ——赤みの金茶色
- ドングリ・クリー——茶色
- ウメ (実) ——赤茶色
- マリーゴールド (花) ——黄土色
- クワ・ヤマブドウ——青色・紫色
- 紅茶(使用済のもの)——茶色、チョコレート色
- ヨモギ——黄緑色、緑色

3. 資 料

(1)草木染めとは

遠い昔から、世界中の人々は、草や木などを使って、衣服などを染めてきました。土や貝なども使っていましたが、ほとんどは、草や木の「葉・花・実・根」、それに、木の「皮・幹・小枝」でした。

ところが、石炭や石油から作った化学染料による染色が広まってくると、草木染めはあまり行なわれなくなりました。

この古い染め方を復興しようとした人たち(山崎あきら等)は、昭和5年、化学染料による染色と区別して、草木を使った染色を「草木染め」と名付けました。

(2)媒染液について

布を染めた後、色素をよく吸収させたり発色をよくしたりするために媒染液につけます。